

盛岡商業の優勝にみる近年の高校サッカーの動向についての研究

A study of the high school soccer trends from Morioka commercial high school won the championship.

1K04A246-7

山本 脩斗

指導教員

主査 中村好男先生

副査 石井昌幸先生

<はじめに>

平成19年1月8日、サッカーの聖地・国立競技場で約3万6千人の大観衆が見守る中、盛岡商業高校が全国高校サッカー選手権大会の頂点に立ち、岩手県に初の栄冠をもたらした。サッカーに限らず、かつて雪国は屋外スポーツの世界では不毛の地とされてきた中で、気候的なハンデをものともせず力に変えての偉業達成は、多くの人々を魅了した。

「強豪校の敗退に新たな勢力の躍進」。第85回大会のこれらの現象を偶然としてではなく必然として捉えるとき、高校サッカーの長い歴史の中で現在がまさに過渡期を迎えていると言えるのではないだろうか。そこで、この論文では盛岡商業高校の優勝にみる近年の高校サッカーの動向について迫っていくこととする。

<目的>

本研究の目的は、盛岡商業高校の第85回高校サッカー選手権大会優勝を糸口に、近年の高校サッカーの動向について明らかにしていくことであり、以下、五つの柱に沿って論を展開していく。

- ① 齋藤重信監督とともに盛岡商業が選手権を制するまでの過程
- ② 主要な大会を通じてみる高校サッカーの歴史
- ③ 選手権大会の歴代優勝校と近年の優勝校にみる高校サッカーの変遷と現状
- ④ Jリーグの誕生とユースチームの存在が高校サッカーに与えた影響
- ⑤ 三つの視点からみえる高校サッカーの存在意義

<第1章>

盛岡商業サッカー部は第85回全国高校サッカー選手権で優勝したがその道は決して平坦なものではなかった。1年前に県予選で負けてから、色々な困難が盛岡商業を向かえたが齋藤監督のもと選手達はその困難を乗り越えてきた。そして、平成19年1月8日、ついに全国の頂点に登り詰めた。

<第2章>

現在、高校サッカーには大きく分けて3つの大きな大会が存在する。

一つ目は全国高等学校総合体育大会サッカー競

技大会。二つ目は高円宮杯全日本ユースサッカー選手権(U-18)大会。そして最後に全国高等学校サッカー選手権大会である。

<第3章>

ここ数年、高校サッカーは“戦国時代”に突入したと言われるようになった。帝京高校や国見高校といった横綱チームも身を潜めるようになり、名門校・強豪校の活躍が目立った時代は終わりを告げ、実力拮抗の群雄割拠、本命なき戦国時代を迎えた。これらの現象を説明するには、Jリーグ設立による高校サッカーへの影響について考えなければならない。

<第4章>

Jリーグが誕生するまでは、サッカーが強い地域の高校や名將がいる高校、または実績のある名門校など、有望なユース世代の選手達はこぞって高校サッカーの強豪校へ集まった。しかしJリーグの下部組織が出来た現在、有望なユース世代はユースチームへと集まり、その結果、高校サッカーに人材が入らなくなったために、突出した選手や高校は姿を消していった。

<第5章>

ユースチームの受け皿としての観点・人材の発掘や育成という観点・人間教育という観点から高校サッカーについて考えたとき、その確固たる存在意義を見いだすことが可能である。

<まとめ>

今、高校サッカーは長い歴史と伝統の中で変革の季節を迎えているということだ。多くの高校サッカーの指導者及びサッカー関係者は、近年の高校サッカーの現状に危機感を抱いている。そして、これ以上ユースチームとの差が広がらないよう、また高校サッカーの質が低下しないよう、様々な取り組みが模索され始めている。ユースチームも高校サッカーも、共に発展し相互に不足部分を補っていけるような関係性を築いていくことが、互いににとってのメリットになるのは言うまでもなく、日本サッカーの進歩そのものにも直接つながっていくのである。